

# 温泉山 歴史散策ウォーキング

歩 三鈷の松 歩 一切経滝 歩 巨岩胎内潜り 歩 知恩堂 歩 片足鳥居 歩 古跡手水鉢 歩 鬼石

## 雲仙お山の情報館 ～ 一切経滝ルート

温泉山・島原半島史跡



← 上記 詳細解説はQRコードをスマホで撮影！

解説 → 最初の画面「地図の凡例を標示」をクリック

★Google Map：解説・画像・ピンポイント位置

雲仙の心地よい自然歩道を散策しながら、雲仙の史跡を訪ねてみよう！

- A ～ B 距離 970m 時間 15分
- B ～ C 距離 530m 時間 10分
- C ～ D 距離 290m 時間 7分
- D ～ E 距離 430m 時間 15分
- E ～ F 距離 430m 時間 15分

(およその距離・時間)



- F ～ G 距離 1000m 時間 20分
- G ～ H 距離 430m 時間 10分
- H ～ I 距離 320m 時間 10分
- I ～ A 距離 130m 時間 5分

(およその距離・時間)

編集・発行：自然公園財団雲仙支部

Creator West by Mac 220529

# 温泉山 歴史散策ウォーキング



## 雲仙お山の情報館 ～ 大黒天ルート

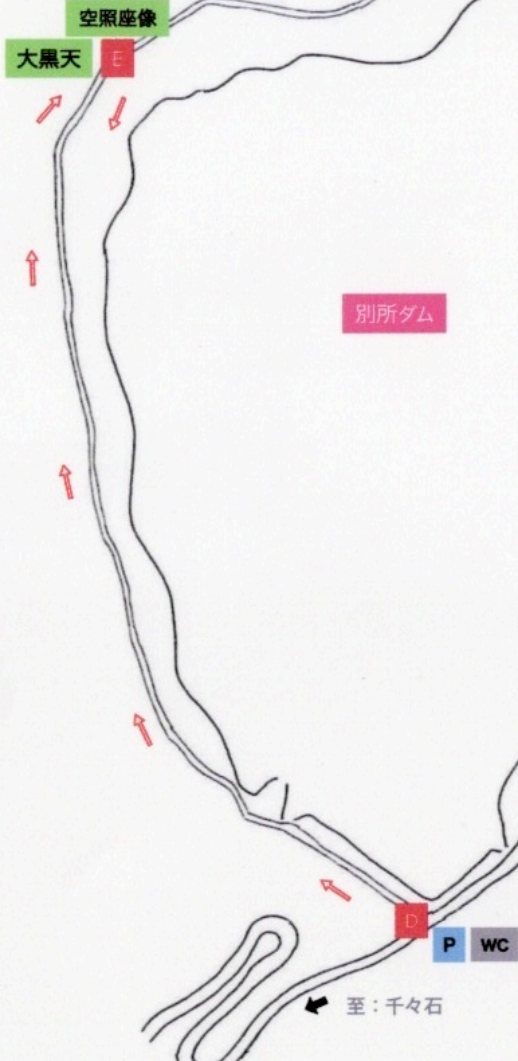
A ~ B 距離 300m 時間 5分

B ~ C 距離 170m 時間 3分

C ~ D 距離 940m 時間 17分

D ~ P ~ E 距離 700m 時間 12分

(およその距離・時間)



歴史の宝庫！「温泉山（うんぜんさん）」歩いて  
雲仙の史跡巡りを、楽しみましょう！



温泉山・島原半島史跡



←グリーンマーク史跡 詳細解説はQRコードをスマホで撮影！

解説 ⇒ 最初の画面「地図の凡例を標示」をクリック

★Google Map：解説・画像・ピンポイント位置

### ① ↓ 満明寺境内

黄金釈迦大仏

温泉山石書法華塔碑銘

伝承行基墓

植木元太郎歌碑

### ② ↓ 満明寺上公園

温泉山八十八箇所巡り

行基立像

龍造寺隆信墓

薬師如来座像

編集・発行：自然公園財団雲仙支部

Creator West by Mac 220601

～雲仙歌碑・句碑・記念碑巡り～ 編集・発行:雲仙お山の情報館

雲仙は、昭和9年3月16日(1934)に、日本で最初の国立公園に指定されました。その素晴らしい自然や景観を見学に多くの著名人が古から訪れ、多くの俳句や歌が詠まれています。温泉街を散策しながら、史跡巡りをお楽しみ下さい。

<p><b>1</b> <b>国立公園指定50周年</b></p>  <p>雲仙お山の情報館から、国道57号線を渡った「指定50周年広場」の地獄遊歩道入口に建立。 「National Park 国立公園 雲仙 UNZEN SINCE 1934」昭和59年(1984)に雲仙観光協会が建立した。 昭和9年3月24日に国立公園第1号に指定された「雲仙」が、半世紀を経た50年後に地獄入口にある記念広場に建てられた碑。 背景に雲仙地獄があり、湯けむりバックに観光客の記念撮影の場所として人気のスポットになっている。</p>	<p><b>2</b> <b>北原白秋歌碑</b></p>  <p>雲仙新湯にある「雲仙宮崎旅館」前庭に建立。昭和52年9月、東京より白秋夫人、長男の龍太郎氏を招いて除幕された。「色ふかく つつじづもる山の原 夏向かう風の 光りつつ来る」昭和52年9月に雲仙宮崎旅館が建立した。 昭和10年5月29日、福岡県柳川生まれの詩人白秋が雲仙を訪れ宮崎旅館に投宿した。 代表作には、「邪宗門」「桐の花」「雲母集」「雀の卵」などあり、刻まれている碑は、白秋が雲仙で詠んだ12句のうちの一つ。</p>	<p><b>3</b> <b>タゴール碑</b></p>  <p>雲仙新湯にある「九州ホテル」エントランス設置「インドの詩人ラビンドラナート・タゴールは大正13年5月雲仙に遊び、このホテルに於いて一夜を過ごした」昭和36年10月19日に生誕100年を記念し長崎タゴール研究会、九州ホテル、一般有志が建立した。 アジア人初のノーベル文学賞を受けたインドの詩人。雲仙を訪れたのは、大正13年5月31日。北京からの帰途、上海航路で長崎着、そこから自動車で来仙し、九州ホテルへ宿泊。</p>	<p><b>4</b> <b>「君の名は」碑</b></p>  <p>温泉街の地獄遊歩道内に設置されている。清七地獄からお糸地獄方面へ進むと、その先20m程の左手に設置。「忘却とは・・・」昭和59年春に雲仙観光協会が建立した。 「君の名は」の映画ロケが雲仙で行われ、雲仙の霧氷が全国的に評判となり観光客が増えたそうです。(昭和29年頃)記念して建立されていた碑を、真知子役の岸恵子氏を招き昭和59年に現在の新しい碑の除幕式を行った。 原作者菊田一夫氏の「忘却とは、」の名文が石盤に刻まれ岩に、はめ込まれている。</p>
<p><b>5</b> <b>聖火燃ゆの碑</b></p>  <p>温泉街地獄遊歩道沿いに設置されている。お糸地獄から高台に見える、キリシタン殉教碑の隣に建立。「今もなお、丹きつつじの山こめて、聖き血しほの、燃ゆるなりけり」碑はかつて、ここに権力の悪が栄え、滅びたことを語り殉教の聖なる血しおをたたえる。昭和14年長崎県建立。 もと一乗院にあったが、すぐそばにキリシタン殉教碑ができた昭和36年11月現地に移された。生田蝶介が雲仙に来たのは、昭和2年、38歳。主婦の友連載小説「聖火燃ゆ」取材のため島原をへて雲仙へ来た。</p>	<p><b>6</b> <b>中川安五郎氏碑</b></p>  <p>雲仙新湯にある「温泉神社」の右手から地獄遊歩道へ通じる参道添いに建立。中川氏は、長崎を代表する名菓、カステラの文明堂創始者で国見町土黒出身。 顕彰は昭和2年、新聞2社の主催する「新日本八景」全国投票の際に名山雲仙を全国に宣伝して回った功績によるもので、昭和36年10月、当時の県知事ほか有志の手で建てられた。</p>	<p><b>7</b> <b>吉井勇歌碑</b></p>  <p>雲仙古湯にある雲仙で最も歴史のある「湯元ホテル」駐車場に、延暦湯由来碑と並んで建立。(現在工事中のため、かせやカフェ裏に移動)「雲仙の湯守の宿にひと夜寝て歌などおもう旅づかれかも」明星派の歌人として知られた吉井勇の来仙は、大正9年。 宿は「湯守りの宿」として知られる歴史のある湯本旅館(当時)で、碑は湯本ホテル(現在)入口に昭和30年7月に建てられた。氏は、短歌の他戯曲、小説などでも活躍し、ゆかりの湯元ホテルには、氏の筆による短冊なども残っている。</p>	<p><b>8</b> <b>一乗院芭蕉塚</b></p>  <p>温泉神社前から原生沼に向って150mへ進むと、右手に歴代温泉山一乗院の住職の墓所がある。その入口に左手に建立。芭蕉は、九州に足を踏み入れていないが、九州には約百基の石碑やと塔がある。 句は「ひばりより、上にやすらう 峠かな」この句は、彼の紀行文「笈の小文」にあり、相違は「空に」が「上」になっている。吉野へ行く途中に詠んだ句。小浜の俳人たちは雲仙にひきよせてこの句を味わい、塚に刻んだのであろう。碑の建立は明和7年(1770)文字の風化が進んでいる。</p>

\* 参考資料・長崎新聞 昭和41年7月 県美の再発見「文学碑」・「パークボイス秋」1997 VOL59

「碑」とは『後世に伝えるため、石に文をきざんで建てたもの。いしぶみ。石碑。』以下略(引用・新村出 編・広辞苑・岩波書店)とあります。興味がある方は、自分の足で散策され、実見され、雲仙の奥深い歴史と文化をお楽しみ下さい。

<p><b>9 温泉山石書法華塔碑銘</b></p>  <p>雲仙山満明寺の境内入口の左側に建立されている。温泉山の歴史を語る貴重な石盤。”現在の「雲仙山満明寺」は昭和55年、南串の温泉山一乗院から独立。 境内には、右肩の欠けた石碑が建っている。「伊勢渡海鮮恵純謹建 皇和文化10年(1813)11月」とある。 この雲仙岳は渡海(大陸と行き来をする)時の目標の山で、名は「日本山」と呼び、天皇からのお願いで僧行基が開いた由緒ある霊山」ということで、これを称えている石碑である。</p>	<p><b>10 植木元太郎碑</b></p>  <p>雲仙山満明寺の境内大仏殿横に建立。”「世の人も、力をそえよ山寺の、昔にまさる色をみるまで」島原鉄道社長であった植木元太郎氏のゆかりの碑。建立は昭和24年前後、氏は文化人として高い評価のあった人で、碑は温泉山満明寺と有志によって建てられた。 昭和14年第十七世西淳海氏の念願により、植木元太郎氏を会長に一乗院復興保存会を設立、信徒の寄進によって、今は亡き「宝物殿」が造営された。</p>	<p><b>11 西岡水朗碑</b></p>  <p>雲仙温泉街から島原方面へ車で10分程にある「雲仙ゴルフ場」内に建立。”西岡水朗氏は、長崎出身の作詞家で、今も歌い継がれている「雲仙温度」は彼の作品。 この歌は昭和5年、作曲・杉山長谷夫、歌・藤本二三吉のトリオで発売された。46歳で亡くなるまでに約700曲を作り、その中には「小浜ブルース」(昭和27年)「嘆きの夜曲」(古賀政男作曲)がヒットした。 碑には、雲仙音頭の一節が刻まれ、ゴルフ場地主組合が昭和60年に建立。訪ねる際には、事務</p>	<p><b>12 高橋虚子句碑</b></p>  <p>雲仙温泉街から島原方面へ、途中から385号線を左折。2〜3分進むと右手にある駐車場の園地(池の原)に建立。「ゴルフ場」に下り立てばつつじ叢高く」高さ2m、幅0.7mの自然石に自筆筆跡を刻む。 昭和33年5月4日雲仙観光協会が建立。虚子の後継高浜利尾氏を迎えて除幕した。九州漫遊の虚子が島原から雲仙へ登ったのは昭和30年5月18日であった。ゴルフ場におり立った巨匠はいちめに咲き乱れる淡紅のミヤマキリシマを前に思わず「つつじ叢高く」とつぶやいた。虚子は矢立てを取り出し、さらさらとしたためたといわれる。</p>
<p><b>13 池田可宵川柳句碑</b></p>  <p>温泉街から仁田峠への循環道路を15分程の見晴らしの良い展望所(第2展望所)下に建立。”「雲仙で阿蘇の煙も見てかえり」高さ1.31m、幅2.9mの自然石に自筆筆跡を大きく刻む。 長崎在住の川柳作家可宵氏の川柳歌碑右肩に英訳句が記載されている。昭和34年5月17日に除幕した。 昭和28年夏、漫画家の池辺釣、前川千帆、宮尾しげ、らと野岳に遊んだときの作である。 阿蘇をよみこんで逆に「雲仙」の雄大な眺めをたてた。</p>	<p><b>14 大智禪師碑</b></p>  <p>温泉街から車で約15分、雲仙仁田峠のロープウェイ駅舎の横に建立。”「地獄天堂一念中 回光一念本来空 空空寂寂非他物 巖上松青躑躅紅」昭和13年建立、自然石の書は蘇峰の揮毫。 大智は肥後の生まれで勤王派だったが、天平3年(1358)加津佐に円通寺を開き入寂とした。 近代日本の代表的時評家、歴史家の蘇峰も、熊本生まれ(同志社卒)、雲仙に遊んだのは、昭和4年5月末日、新湯の有明ホテルに宿し普賢岳へ登った。</p>	<p><b>15 昭和天皇歌碑</b></p>  <p>雲仙仁田峠から野岳尾根づたいに山頂方向へ20分の場所に建立。”「高原に みやまきりしま うつくしく むらがりがさきて 小鳥とぶなり」昭和24年5月6日、九州ご巡幸のみぎり雲仙で御製。 碑は標高1,147mの野岳山頂近く、天然記念物のイヌツゲ群落に囲まれた「泊まり岩」に、はめ込まれている。 除幕は昭和29年3月で、御製にちなみ長崎県ではミヤマキリシマを県花とした。昭和天皇の歌碑は全国に23基、その最南端にある歌碑。</p>	<p><b>16 温泉山碑(雲仙の歴史)</b></p>  <p>雲仙山満明寺の駐車場の奥に平成13年に建立。温泉山(雲仙)の歴史が詳細に記録されている。温泉山は比叡山、高野山とともに天下の三山と称され、その繁栄ぶりは、高野山をしのぐ勢いで、雲仙一帯は霊場として世の崇敬を集めた、いわばメッカ的な地位であった。 しかし、キリスト教が盛んな頃(16世紀頃)キリシタンによる襲撃が相次ぎ、満明寺は焼失した。復興されたのは、寛永17年(1640)に、遠州浜松城主高力忠房公が島原藩主として着任し温泉山一乗院として再興した。</p>

# 雲仙：歌碑・句碑・記念碑 案内地図

歴史の宝庫、温泉山！地獄歩道を散策しながら、歌碑・句碑・記念碑を訪ねてみよう！

- 11 雲仙ゴルフ場
- 12 池の原；矢岳駐車場園地
- 13 仁田峠循環道路：第2展望所下
- 14 仁田峠：ロープウェイ駅横
- 15 仁田峠から野岳尾根を山頂方へ約15分

温泉山・島原半島史跡



★Google Map：ピンポイント位置・解説・画像・

←歌碑 詳細解説はQRコードをスマホで撮影！

解説 ⇒ 最初の画面「地図の凡例を標示」をクリック

雲仙の『歴史・自然』音声解説はQRコードをスマホで撮影！ ⇒

ご自分のiPhone（スマホ）で、いつでも・どこでも「無料」でアクセス可能です。



編集・発行：自然公園財団雲仙支部

Creator West by Mac 230602

～温泉山(雲仙)史跡・歴史巡り～ 編集・発行:雲仙お山の情報館

かつて、雲仙は「温泉山」と書かれ「うんぜんざん」と呼ばれ、比叡山や高野山よりも古い歴史がある仏教・山岳修験の女人禁制の霊山でした。その後キリスト教の新興による弾圧や破壊、藩主有馬晴信の改宗、島原一揆により多くの仏教文化が破壊されました。  
 ★位置図:HPトップ画面、右下 温泉山史跡クリック

<p>1 雲仙山満明寺・釈迦大仏</p> 	<p>2 温泉山石書法華塔碑銘</p> 	<p>3 行基の墓(伝承)</p> 	<p>4 温泉山八十八カ所巡り</p> 
<p>明治30年出火のため当時の釈迦堂、護摩堂などは焼失。檀家を中心に浄財を募り、明治43年(1910)年大仏建立に着手。大正6年(1917)開眼。温泉山は比叡山、高野山とともに天下の三山と称され、その繁栄ぶりは、高野山をしのご勢いで、雲仙一帯は霊場として世の崇敬を集めた、いわばメッカ的な地位であった。              しかし、キリスト教が盛んな頃(16世紀頃)キリシタンによる襲撃が相次ぎ、満明寺は焼失した。復興されたのは、寛永17年(1640)に、遠州浜松城主高力忠房公が島原藩主として着任し温泉山一乗院として再興した。</p>	<p>雲仙山満明寺の境内入口の左側に設置されている。温泉山の歴史を語る貴重な石盤である。現在の「雲仙山満明寺」は昭和55年、南岸の温泉山一乗院から独立。              境内には、右肩の欠けた石碑が建っている。「伊勢渡海 群恵純蓮建 皇和文化10年(1813)11月」とある。              この雲仙岳は渡海(大陸と行き来をする)時の目標の山で、名は「日本山」と呼び、天皇からのお願いで僧行基が開いた由緒ある霊山」ということで、これを称えている石碑である。</p>	<p>かつては、寺の馬場にあったが、現在は満明寺境内に移転されている。その後方には、温泉山復興に尽力された植木元太郎の歌碑がある。大宝元年(701年)温泉山は、天下の霊山として、僧行基が文武天皇の勅願により、開山された。満明寺縁起書に記されている。この五輪塔が伝承行基の墓と言われている。半島内では、フロイスの「日本史」に記載のとおり16世紀頃、多くの寺社仏閣・仏像・仏塔がキリスト教徒に破壊された。              温泉山(雲仙)において、ほぼ全形が残っている貴重な史跡である</p>	<p>温泉山で巡れる簡易の八十八カ所巡りになっている。満明寺境内から始まり、境内上の公園を通り約15分程で、八十八カ所巡りを体感できる。昭和44年「雲仙八十八カ所霊場復元趣意書」によると、大師が入唐されたとき密教の釈尊遺跡八塔の霊地を巡拝され、その土を持ち帰り八の十倍の八十八の数の砂を敷いて伽藍を建立し四国八十八カ所の霊場とされた。              この雲仙八十八カ所の霊場を遍歴すれば、今も尚、大師は生きて喜び迎えて下さり、色々の悩みを取り除いて下さると、「同行二人」の奇跡信じて遍路の道を歩いてみよう。</p>
<p>5 行基像</p>  <p>僧侶を国家機関と朝廷が定め仏教の民衆への布教活動を禁じた時代に、禁を破り畿内を中心に民衆や豪族層など問わず広く仏法の教えを説き人々より篤く崇敬された。              また、道場や寺院を多く建立しただけでなく、溜池15窪、溝と堀9筋、架橋6所を、困窮者のための布施屋9ヶ所等の設立など数々の社会事業を各地で成し遂げた。温泉山他にも、行基開山伝承の温泉地が多くある。</p>	<p>6 龍造寺隆信五輪塔</p>  <p>昭和62年頃、雲仙観光通りを考える会が、満明寺の裏山に散らばっていた五輪塔の隆信墓石を集め、修復再建した。天正12年島原地方を所領していた有馬晴信を佐賀の龍造寺隆信が攻め、島津氏の援軍を受けた有馬氏が迎え討ち、龍造寺軍は敗退し龍造寺隆信は戦死した。古湯有志により墓再建の話が出た頃、小浜商工会が、「地区起こしの資金配分」を企画、古湯地区が、寺の馬場、新湯地区に呼びかけ三地区の資金を拠出修復再建した。開眼供養の時は、龍造寺家の子孫、長崎戸石の澤田祐造も参列された。</p>	<p>7 温泉神社(四面宮)</p>  <p>温泉山(雲仙)を中心に、今も尚、半島には温泉神社(四面宮)が17カ所存在し、温泉山繁栄し頃の様子を知る事ができる。温泉神社は、満明寺と同じ大宝元年の創立と言われ、四面宮として古事記に記されている。四面宮とは九州の4神のことで雲仙だけでなく、九州の守護神であったと言われ、明治時代は、筑紫国魂神社、大正5年に現在の温泉神社と改められた。13世紀初頭の元寇の時、元軍に一身三面の勇士があつて幕府軍を悩ましたが、忽然と一身四面の勇姿(神)が現れこれを撃退したという。これが温泉神だった。</p>	<p>8 鬼石</p>  <p>人通りの少ない旧八万地獄の歩道から、すこし外れた場所に巨大な岩「鬼石」がある。              息を止めて、一周できると願う事が叶うとか、。東西南北を、十二干支の卯(東)、酉(西)、午(南)、子(北)で表わし、小地獄は木指名、別所はミウバン浜と表記された、古い雲仙の絵図面に、鬼石の場所が明記されており、温泉山縁起にも、「此の山ノ本主、歎羅は、四面ノ大鬼ナリ。行基菩薩ニ遇ヒ奉リ、種々ノ問答アリ。又、鬼アリ、男鬼ノ名ハ、空仙鬼、女鬼ノ名ハ、難林王ナリ。此の鬼々ヲ加持スレバ、即チ鬼石トナル」と記されてある</p>

～温泉山(雲仙)史跡・歴史巡り～ 編集・発行:雲仙お山の情報館

かつて、雲仙は「温泉山」と書かれ「うんぜんざん」と呼ばれ、比叡山や高野山よりも古い歴史がある仏教・山岳修験の女人禁制の霊山でした。その後キリスト教の新興による弾圧や破壊、藩主馬晴信の改宗、島原一揆により多くの仏教文化が破壊されました。  
 ★位置図:HPTトップ画面、右下 温泉山史跡クリック

<p>9 弘法大師空海座像</p> 	<p>10 木花開耶姫神社</p> 	<p>11 大黒天磨崖仏</p> 	<p>12 三鉢の松</p> 
<p>空海来仙伝承がある島原半島、温泉山には数多く、右手に五鉢杵をお持ちの空海像がある。ただし、無残な首無し之地蔵や空海像も多く見られる。地獄遊歩道に祀られている空海像だが、一度首が跳ねられ、後にセメントで取り付けられている。こういった悲慘な空海座像や、地蔵・仏像が島原半島、雲仙周辺では数多く見られる。              キリスト教が半島内に広まった頃、一神教である、彼らにとって仏教は敵対する悪魔の宗教として写っていた。              また、半島内には隠れキリシタンの印を持った多くの仏像も存在している。</p>	<p>原生沼の周回歩道から参道が始まり、約10分程登ると、木花開耶姫神社へ辿り着く。木花咲耶姫を祀っている神社は日本全国にあり、火中出産の説話から火の神として祀られている。              ただし、浅間神社の総本山である富士山本宮浅間大社の社伝では、噴火を繰り返す富士山を鎮めるために水神として祀られている。              また、「日本書紀」によれば木花咲耶姫は、妻の守護神、安産の神、子育ての神、酒の神として祀られている。子供の幸せを願って参る方も多い。</p>	<p>温泉街から千々石方面への県道128号へ進むと「オンドリの池」(貯水ダム)がある。その周回歩道の途中に磨崖仏大黒天がある。大黒天は、密教の伝来とともに日本に伝わり、大國主命と神仏習合してきた神で七福神の一柱としても知られている。最澄が比叡山延暦寺の台所の守護神として祀ったのが始まりと云われている。巨岩のさげめの奥に大黒天が彫り込んである。俵に乗って、右手に小ぶちを持った像は高さ2.5mその上には見上げるほどの巨石が積み重なっている。商売の神様として信仰も厚く、その巨岩は迫力があり、参拝者も多い。</p>	<p>大師が唐での修業を終え帰国の折、「日本での修業地を示し給え」と「三鉢杵」を空に向けて投げになり、帰国後に高野山の松(葉が3本)に止まっていた。小地獄から一切経堂への参道途中に葉が3本ある珍しい「三鉢の松」がある。空海伝承の松で高野山では、お守りとして販売している。              空海伝承がある寺院では見られる場所もあるが、長崎県ではここだけである。満明時も真言宗であり、三鉢の松がこの地にあるのは高野山との交流があったころ、当時の修行僧の身体の保護を願って移植したのではないかと云われている。現在もお守りとして人気があり、訪問者が多い。</p>
<p>13 一切経の滝</p>  <p>小地獄から緩やかな参道を美しい溪流に沿って約15分下って行くと、巨木が多く見られる深山幽谷な場所へ一切経の滝がある。大宝元年(701)行基菩薩は天草から温泉岳の噴煙を見て、彼の地を求法の地と定められ、やがて口之津に渡り、有家を経て、温泉山の一切経の地に着かれ、ここに堂を建てて仏道修行の道場とされた。              一切経とは、すべての仏典をさし、行基が経文をここから流したともいわれている。ここから下流は別名「小耶馬溪」と呼ばれ美しい渓谷美がたっぷりしている</p>	<p>14 知恩堂</p>  <p>一切経堂から約20分山道を登って行き、分岐点から左折すると大きな岩壁が見えてくる。少し進むと巨石にトンネルがあり、抜けると知恩堂に着く。今の知恩堂は、中興の祖である豊田カヨ尼僧である。靈感によって開山されたとも云われ、当時、目のくらむような絶壁の途中の畳三枚ぐらいの広さに、むしろ作りで雨露をしのぎ、修行され靈感を授けられ、衆生済度に尽くされたという。昭和44年、88才で逝去。この巨石などのぐぐりを、胎内めぐりと云って、多くの霊場には見られ、仏の胎内に入り、身を清め、心の安心を願うものである。</p>	<p>15 七日廻りの石</p>  <p>白雲の池入り口より、札の原方面へ30m程行った右手の山林の川沿いに「七日廻りの巨石」が人知れずある。信仰の地であった温泉山は、女人禁制でもあった。たとえ母と子であっても、その掟は厳しかった。              ある日、僧坊にあづけられた我が子に会いたい一心から、幼児をつれた母親が禁制を破ってこの岩まで来て休んでいたところ、突然幼児がいなくなった。              母親は狂ったように、七日七夜この石の周りを探したが、そのうち息途絶えた、と、どう悲しい話しが伝わる。</p>	<p>16 片足鳥居</p>  <p>札ノ原バス停近くにある片足鳥居は、かつて温泉神社が「四面社」と呼ばれていた頃の第一鳥居で、この先は女人禁制であった。文政10年(1827)9月12日北有馬の八木与一兵衛が建立した鳥居。いつ何の原因で壊れた片足鳥居になったか不明だが、道路の拡張や用地造成などで三分の二ほど埋まった形になっているのを据え替えたのである。              鳥居は、ヌキの一部をつけた左側だけだが、柱は高さ4.7米、円周2.3m、重さ約7屯の自然石でカサ石の一部と「四面社」と刻んだ石額も保存されている。</p>